

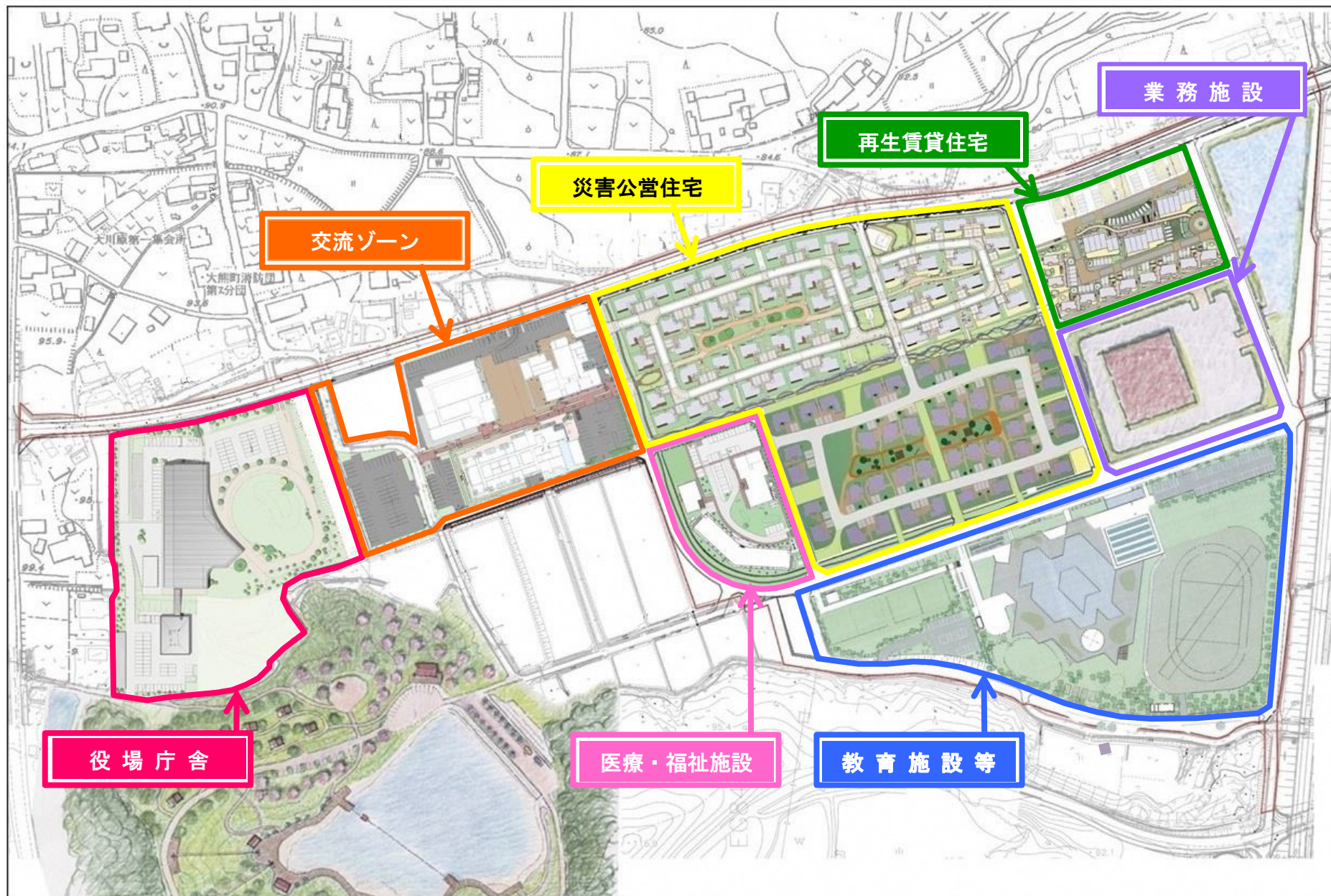
大熊町の復興拠点等整備計画 について

福島県大熊町

令和4年2月

1. 大川原地区復興拠点

大熊町復興拠点 (大川原地区)



※本計画は現時点のイメージであり、確定したのではなく、今後の検討等により変更となります。

大川原復興拠点の施設①



役場新庁舎

○2019年3月に完成し、同年5月7日から業務を開始

【庁舎棟(A棟)】

執務室、町長室、議場、交流スペース(おおくまホール)等

【防災・災害対策機能棟(B棟)】

災害対策会議室、防災倉庫棟



災害公営住宅

○被災した町民の方向けに整備

【第1期(50戸)】2019年6月1日入居開始

Aタイプ 40戸 木造平屋戸建て 3LDK(82㎡程度)

Bタイプ 10戸 木造平屋戸建て 2LDK(67㎡程度)

50世帯 71名が入居(9月30日現在)

【第2期(42戸)】2020年5月入居開始

Aタイプ 22戸 木造平屋戸建て 3LDK

Bタイプ 20戸 木造平屋戸建て 2LDK

42世帯 57名が入居(9月30日現在)



再生賃貸住宅

○町内への帰還希望者、移住希望者及び転入予定者の方向けに整備

共同住宅の形態で2階建て(40戸) 2019年10月入居開始

2LDK 24戸

1LDK 16戸

40世帯 50名が入居(9月30日現在)

大川原復興拠点の施設②



【住民福祉センター】

○町社会福祉協議会の事務所が入居するほか、会議室とランニングマシン、マッサージ機等を設置した多目的室を配置

医療・福祉施設

【認知症高齢者グループホーム おおくまみの木苑】

○東西の棟でそれぞれ9名入所可
東棟 8名入所
西棟 5名入所 (8月31日現在)

【福祉事業者事務所】

【診療所】

○診療日は、週1回(火曜日)午前のみ
医療ニーズを見ながら開所日、診療科目の追加等を検討
○南相馬市立総合病院から医師の派遣を受けている。



【商業施設 おおくまーと】 (2021年4月5日先行開業)

店舗	売り場面積
コンビニ(1店舗)	274㎡程度
小売店舗(4店舗) (日用雑貨①、電器①、美容①、コインランドリー①)	各66㎡程度
飲食店(4店舗) (和食②、洋食①、パン①)	同上

※丸囲い数字は、店舗の数

交流ゾーン(2021年10月17日グランドオープン)

【交流施設 linkる大熊】

施設	床面積
多目的ホール	440㎡程度
研修室 2室	77㎡程度×1室 37㎡程度×1室
音楽スタジオ	36㎡程度
運動スタジオ	138㎡程度

【宿泊温浴施設 ほっと大熊】

施設	床面積
宿泊施設 13室	小6室 1室30㎡程度
食事等 1棟	中6室 1室40㎡程度
	大1室 1室70㎡程度
温浴施設 1棟 ※	約600㎡

※温浴施設は、立ち寄り入浴のみも可

大川原復興拠点の施設③



学校教育施設

【学び舎 ゆめの森】

現在、義務教育学校の新校舎を建設中

令和4年春 会津若松市(避難先)に義務教育学校を開校予定
校名は「学び舎 ゆめの森」

令和5年春 大川原地区に移転予定

町内の移動支援



生活循環バス

○2019年6月1日から運行

○運行経路

大野駅～下平～大熊町役場～大川原復興住宅～富岡郵便局
～富岡中央病院～さくらモール・富岡診療所～富岡駅

○運賃無料。年中無休。町民以外の方も利用可。

○2021年4月1日からは、小型電気バスを使用

(仕様) BYD社製 全長約7メートル 定員25名(乗客用座席13)

リチウムイオン電池を使用し、3時間の充電で150キロメートル走行可能

2. 大川原地区復興拠点外

植物工場



○営農活動再開の先駆けとして、町復興を広く伝えるとともに、町民が帰還した際の雇用の場となることを目指して、約4.8ヘクタールの敷地に、高さ6メートルほどのビニールハウスや集出荷管理棟、作業室等を建設。

○2019年4月から施設管理運営者「株式会社ネクサスファームおおくま」による太陽光利用型植物工場として、夏秋いちごと冬春いちごの周年栽培を開始。出荷第1号として、同年8月、「すずあかね」を収穫。

○「ポットスライド型高設養液栽培」により労働負荷を軽減。
また、環境制御システムにより、ハウス内の環境をセンサーで感知し、いちごに適した環境を作り出し効率的な栽培を行う。



とちおとめ、かおり野、ふくはるか、
やよいひめ、すずあかね等いろいろな
個性と特徴を持ついちごを周年栽培



立ったまま作業を行うことができ、
腰やひざの負担を軽減

廃炉関連企業



福島復興給食センター株式会社

- 福島第一原子力発電所の数千人の作業員たちに温かい食事を提供すべく、2015年に誕生。毎日2,000食を送り届け、作業員の作業環境改善に貢献。
- 現在、給食センター内及び福島第一原子力発電所構内にある3か所の食堂で約100人が働いている。



株式会社東京エネシス

- 東京エネシスは、大川原地区に福島総合支社を移転し、2016年9月から営業を開始。約500人が勤務。
- 同事務所は、大熊町として最初の避難所指定に関する協定を締結。一時帰宅や帰還困難区域に立ち入る町民の方が、災害時に安全を確保するための避難所機能も有する。



東京パワーテクノロジー株式会社

- 東京電力のグループ会社である東京パワーテクノロジーの新事務所が2017年4月に完成。
- 大熊町は、同所とも避難所指定に関する協定を締結。
- 約1,000人が勤務し、この地区で最も大きな事業所である。

東京電力単身寮

○大川原地区の避難指示解除(平成31年4月)前に供用開始。避難指示解除前、入居者は、特別な許可を得て町内で生活。

A団地



戸数 230戸(3階建)
竣工 2016年7月15日
入居開始 2016年7月30日

B団地



戸数 520戸(2階建)
竣工 2016年8月31日
入居開始 2016年9月14日

メガソーラー

大熊町ふるさと再興メガソーラー発電所



事業者 福島発電
発電開始日 2015年12月18日
事業面積 約3.2ha
設置容量 約1,890kw
想定年間発電量 約2,200MWh
(約600世帯分)

大熊エネルギー・メガソーラー発電所



事業者 大熊エネルギー合同会社
発電開始日 2017年10月1日
事業面積 約16ha
設置容量 約11,669kW
想定年間発電量 約12,700MWh
(約3,500世帯分)

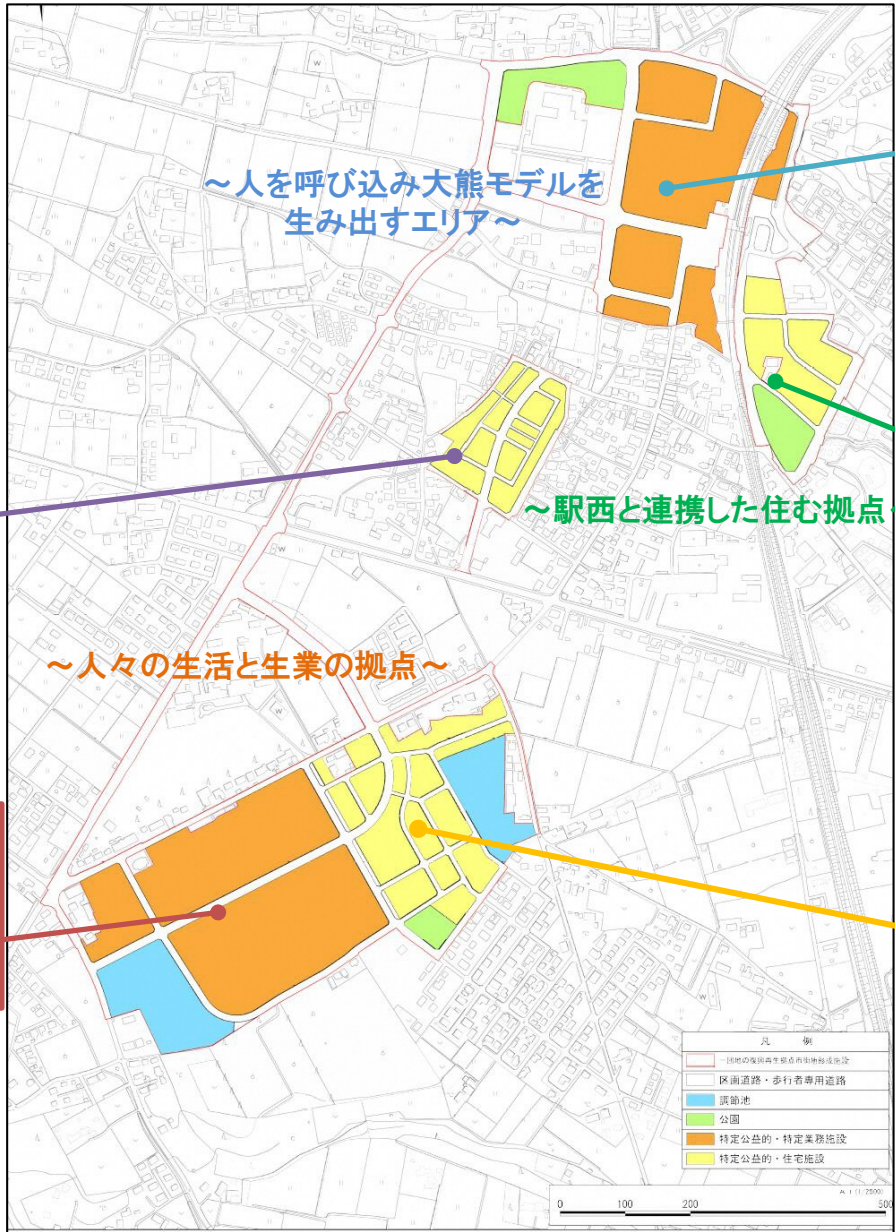
3. 下野上地区復興拠点

大野駅周辺・下野上地区の整備

◇下野上地区全体シナリオ

～大熊町復興の核となる拠点～

- I. 中長期的復興を見据えた規模の施設整備
- II. 持続的な生業を創出する産業と生活の場づくり
- III. 先行的整備で周辺市街地の復興に寄与



大野駅西地区(約6.0ha)

◆産業交流施設や商業施設を整備誘導し 町を訪れる人、働く人を増やすとともに新たな価値が生まれる機能を備えるエリア

大野駅東住宅エリア(約1.9ha)

◆駅西に整備予定の産業交流施設や商業施設の就労者等を念頭に、民間集合住宅の誘導を検討するエリア。

梨畑住宅エリア(約4.2ha)

◆戸建住宅用賃貸宅地を基本に、需要に応じて帰還者向けの再生賃貸住宅を整備するエリア。隣接する中央産業拠点の就労者向け社宅用借地など、立地企業のニーズも踏まえた住宅の誘導を検討する。

旧大野病院跡 住宅用地(約2ha)

◆戸建住宅用賃貸宅地を基本に、一部に帰還者・移住者向けの再生賃貸住宅を整備するエリア。町民の要望を聞きながら時間をかけて最適な整備を図る。

中央産業拠点(約9.3ha)

◆新産業や研究施設等の企業誘致を行い大熊町が持続的に発展できる生業を生み出すエリア

～人を呼び込み大熊モデルを生み出すエリア～

～駅西と連携した住む拠点～

～人々の生活と生業の拠点～

※土地利用は変更手続き中の内容であり、法定手続を経て今後決定となります。

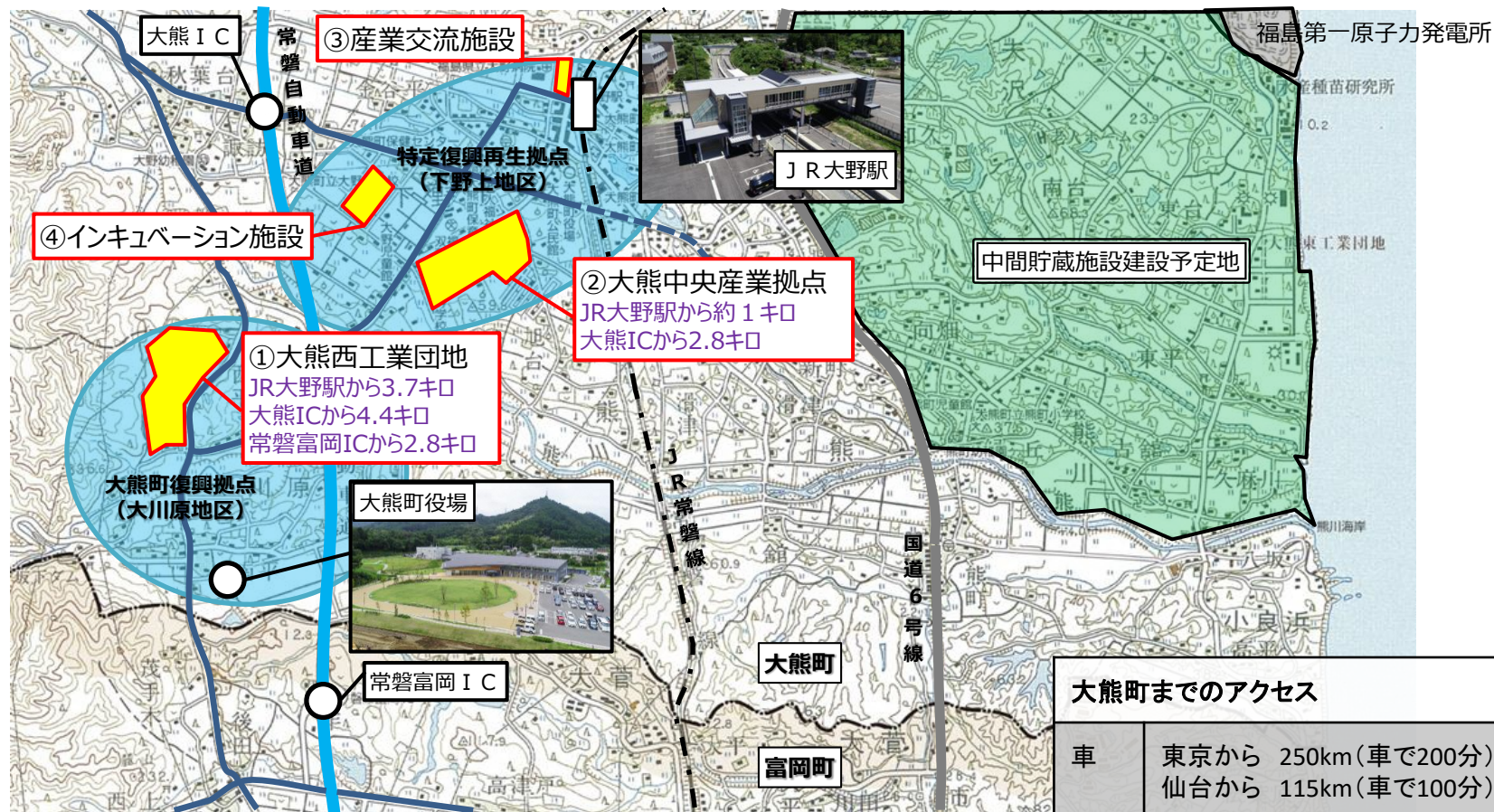
駅西口パース図



4. 産業の創出

産業誘致

整備予定の産業用地の位置



大熊町までのアクセス

車	東京から 250km(車で200分) 仙台から 115km(車で100分)
鉄道	東京駅から大野駅まで 260km(200分) 仙台駅から大野駅まで 100km(130分)
空港	仙台空港から 100km(車で90分)

整備予定の産業用地の概要

				
名 称	①大熊西工業団地	②大熊中央産業拠点	③産業交流施設(大野駅西)	④インキュベーション施設
規 模	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積/約8ha【最大】 3～7区画程度の用地を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積/約9ha【最大】 7～10社程度の用地を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 床面積/4,600㎡程度 8～10社程度の貸事務所(1室あたり100㎡～)を整備 	<ul style="list-style-type: none"> 床面積/2,700㎡程度 貸オフィス6室程度のほか、シェアオフィスやコワーキングスペースを整備
コ ン セ プ ト	<ul style="list-style-type: none"> 大熊町の原風景を活かした憩いの場としての機能も付加し、帰還住民・新住民の移住・定住のための就労地/雇用創出の場としつつ、高機能インフラを導入した工業団地として整備 働き手のヘルスケアに寄与しつつ、経済と環境が両立するSDGs型団地 	<ul style="list-style-type: none"> 除染/廃炉関連技術の研究開発や次世代技術・産業を育む企業群を集積する職住近接型の産業拠点として整備 高度技術・産業の導入やオープンファクトリーなどの体験型産業集積拠点 	<ul style="list-style-type: none"> 駅前立地や中間貯蔵施設に近接という立地特性を活かしつつも、大熊町の玄関口として街の賑わい創出や情報発信などの機能も付加した公的施設として整備 住民向けサービスや産業を担う各種施設等も併設した超利便的施設 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣立地企業との親和性のある高度技術や産業シーズのほか、学術的見識を用いたシナジー効果を狙ったインキュベーション機能を整備 新サービスによる地域課題解決型ビジネスや最先端産業の創出拠点のほか、異業種交流による賑わい創出ベース
ユーティリティ	電気(高圧)/上水/一般通信	電気(高圧)/上下水/高速通信	電気(高圧)/上下水/高速通信	電気(高圧)/上下水/高速通信
整備予定時期	2023年4月頃供用開始予定	2023年春頃供用開始予定 (2022年12月頃一部供用開始予定)	2024年秋頃開業予定	2022年4月頃入居開始予定

ご清聴ありがとうございました